

# うめナビ

2013.4  
Vol.13

## 音が心と心をつなぐ 技術力溢れる リード楽器専門メーカー

日本教育楽器

日本教育楽器(港区芝大門、長谷川茂行社長、03・3431・1631)は、昭和30年創業、ハーモニカやラップ等の楽器を取り扱う。設立以来、一貫してリード楽器の専門メーカーとして、より良い音が出る廉価・堅牢の教育音楽用楽器の製造と、汎用性のあるリード部品づくりに努めている。

同社の扱う代表的な商品としては、まず、自然配列システムが子供たちに理解されやすく画期的な教育用器材だということ、文部科学省基準教育用品審査会より全国の学校へ推薦された「サカホーンハーモニカ」、今も同社の音源が国内シェア80%を占めるというハーモニカの音で沸騰を知らせる「笛吹きケトル」、さらには音階を単音で吹奏する「ペットホーン」の技術を応用した応援ラップは、サッカーJリーグの応援に使用され、長野オリンピックでは公式応援グッズに採用された。いずれも、

業界初の新技術が話題になった大ヒット商品である。リードプレートを一体成型でつくる世界初の新製造法を開発し特許を取得、玩具用ラップの音源として商品化した際に、その高い技術力が認められ、第20回中小企業優秀新技術・新製品「奨励賞」の栄誉を受けた。製造が途切れていた昭和の音色「とうふ屋ラップ」を復刻、昨春より受注生産を開始して、NHK等で紹介されたことも記憶に新しい。

「とうふ屋ラップ」を復刻、昨春より受注生産を開始して、NHK等で紹介されたことも記憶に新しい。プラスチックハーモニカの組立キットを開発し、地域の子供たちにもづくり体験として製作してもらったことがある。自分の組み立てたハーモニカに恐る恐る息を吹き込み、音が出た時の子供たちの喜ぶ姿がとても印象的だったとのこと。「自分の手でつくり上げた達成感・充実感を多くの子供たちに体験してほしい」と長谷川社長。学校や試合会場、さらには台所まで、日本中の街角にリードの技術を活かした様々な「音」が鳴り響き、一人ひとりの心をつなげていく。



長谷川社長のアイデア溢れる「音」が日本中へ



懐かしい音色に昭和を思い出す「とうふ屋ラップ」

## 商品に込められたメッセージをパッケージが伝える 人の心を動かす 紙器製造会社

富士紙器印刷

「皆さんも一度はうちの製品を見たりに取ったりしていると思うよ」。富士紙器印刷(横浜市鶴見区駒岡、近藤哲史社長、045・582・9111)は、昭和5年に台東区に紙器加工所を開業し、現在は本拠地を横浜市の鶴見に移し、2つの製造工場を抱える紙器製造業者である。お菓子、食用品、工具等の化粧箱の企画デザイン、CADシステムを使っての構造設計から印刷加工、貼箱製造まで一貫して社内生産することにより、商品の価値、品質を高める努力を日々行っている。その他にも包装紙・カタログ・チラシ・シール・ポスター・タペストリー・ファイル・各底袋・手提げ袋・封筒・ポリ袋・PP袋・不織布袋・成型トレイ・プリスターパック・スライドパック・丸紙管・角紙等々：非常に多くの商品を手掛けている。

「皆さんも一度はうちの製品を見たりに取ったりしていると思うよ」。富士紙器印刷(横浜市鶴見区駒岡、近藤哲史社長、045・582・9111)は、昭和5年に台東区に紙器加工所を開業し、現在は本拠地を横浜市の鶴見に移し、2つの製造工場を抱える紙器製造業者である。お菓子、食用品、工具等の化粧箱の企画デザイン、CADシステムを使っての構造設計から印刷加工、貼箱製造まで一貫して社内生産することにより、商品の価値、品質を高める努力を日々行っている。その他にも包装紙・カタログ・チラシ・シール・ポスター・タペストリー・ファイル・各底袋・手提げ袋・封筒・ポリ袋・PP袋・不織布袋・成型トレイ・プリスターパック・スライドパック・丸紙管・角紙等々：非常に多くの商品を手掛けている。

また、昨年の8月5日(ハコの日)、東京紙器工業組合展で同社の製作した作品が見事理事長賞を受賞した。このような功績を残せたのも、同社が顧客との入念な打ち合わせを通じて、その要望に臨機応変に対応することができる一貫生産体制を敷いている点にあると言える。その上、大手企業にはできない多品種少ロットでの受注もでき、納期や納入方法も顧客の要望通りに提供できるから便利。短納期でもそのディテールには定評があり、ブランド品の化粧箱や高級和菓子店などの複雑でおしゃれな商品の注文が多い。

同社のモットーは「心を動かすもの創り」。「商品に込められたメッセージをフォルムとグラフィックで表現し、パッケージが伝えることで思わず手に取りたい。そのようなパッケージ創りを目指している」と近藤社長は話す。実際、同社の商品は日常誰もが目にしたことのあるものが多い。近藤社長は、「常に顧客の立場になつてものごとを考えている。要望以上の提案をすることで、お客様に喜んでほしい。パッケージで人を幸せにしたい」と語る。どんな状況にも顧客最優先で突き進む同社の確固としたスピリットは、決して揺らぐことがない。



食品パッケージの多くを同社は手掛けている



家をイメージしたパッケージ素材

どんな状況にも顧客最優先で突き進む同社の確固としたスピリットは、決して揺らぐことがない。

	12先	24先	18先	58先	28先	15先	14先	24先	20先	11先	73先	合計 <b>297先</b>
--	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------------------

※本誌は、城南信用金庫のお取引先に配布する他、商社、百貨店、スーパー、メーカー、マスコミ、大学等にもお届けしています。



# 笑顔・人情・憩いの場 地元情報発信局 魅力あふれる 街づくりを目指して

用賀商店街振興組合

「一人でも多くの方々と知り合  
い、仲間になっていきたい」。力強  
く語るのは、用賀商店街振興組合  
(世田谷区用賀、小林弘忠理事長、  
03・3700・6659)の小林  
理事長。砧公園、馬事公苑といった  
緑が豊富で交通アクセスが良い、  
住環境に優れた街の用賀。その中  
で「地域街づくりと協働した商店  
街づくり」を目標に、商店街振興プ  
ランに5年前から取り組んでおり、  
各商店の魅力向上、共同販促事業  
やテナント施設の活用にも力を入  
れている。商店街組合員の接客研  
修を定期的に行い、サービスの向  
上に努めるとともに、各種キャン  
ペーン、イベントや地元の歴史、税  
務、建築等様々な講演会、相談会  
の実施、そして商店街の宣伝部長で  
あるマスコットの「よっきー」の製  
作等、地元の方々に商店街へ目を  
向けてもらうための様々な工夫を  
行っている。(ちなみに「よっきー」  
は、世田谷区の特別住民票を持っ  
ている)

また、消費者ニーズに応える品  
揃えの充実を図る目的で地方と

の交流を進めている。「まちなか  
観光物産館」として、岩手県陸前  
高田市のアンテナショップ「田舎  
のごつつお」や、全国のセレクト  
ショップ「よーがや」の運営を行っ  
ている。

大型スーパーに負けない特色あ  
る商品や、イベントでの集客、加え  
て地元の方々の役に立つことによ  
り、お互いが発展、繁栄していく  
共生を目指した結果、組合員数は  
現在270名を超えるまでになっ  
た。毎年組合員数が増えているこ  
とに笑顔を見せながらも、「最後  
は人と人とのつながりであり、支  
えあうことで安全・安心が生まれ  
る。魅力あふれる、住みやすい街に  
することが振興組合の役割だ」と  
小林理事長は語る。

用賀商店街振興組合のホーム  
ページ(<http://hellyogajp/>)には  
街の歴史から各種イベント、店舗  
情報等様々な情報が掲載されてい  
るので、ご覧いただき、興味のある  
場所へ足を運ばれることをお勧め  
する。



同商店街のマスコット「よっきー」



「人と人とのつながりを大切にしている」と小林理事長

# ちよつと変わった電気屋さん イベント会場の設営は 我が社にお任せ

エヌデン



同社の展示会での施工事例

ています」と野津社長は話  
す。

イベント会場での照明設  
置は設置方法も様々。指定さ  
れた時間内で設営を終わら  
せるスピードにさらに加え、  
時には不測のトラブルへの  
対応も求められる。

「①安全・安心・信頼・謙虚  
②実現・理想・夢をあきらめ  
ない③志は高く腰は低く④  
100の仕事を120%に」  
という社内理念を掲げてい  
る同社。これまでのノウハウ  
を活かし、直接ブースを照ら  
すスタンダードな照明は勿  
論のこと、場合によっては什器の  
製作も引き受け、顧客の商品の効  
果的な演出をサポートしている。

「ちよつと変わった電気屋さん」  
エヌデン(大田区西嶺町、野津幸久  
社長、03・3756・0141)

は、日本消化器内視鏡学会、東京  
モーターショーをはじめ、東京  
ビッグサイトや東京国際フォーラ  
ム、幕張メッセ等で開催される展  
示会やイベント会場での照明の設  
置を主業としている。もともとこ  
の事業は、舞台照明の電気を調整  
する仕事から派生したものだ。「あ  
る時から展示会やイベントのブ  
ームが起き、そのとき父がい  
た会社に『同じ照明だし、や  
ってみたいよ』という話  
がくるようになった。そこ  
から現在の事業につなが



座右の銘は「継続は力なり」という野津社長

のニーズとして、応える必要  
があるのだ。コンセントをモ  
チーフにした愛らしいキャ  
ラクターが迎えてくれる  
ホームページでは、施工事例  
の写真や取扱器具の一部が  
公開されている。  
詳しくはホームページ  
にて(<http://www.n-den.co.jp/>)

# オーガニックスな庭づくりを 化学農薬を使用しない お客様の生活や環境に配慮した造園

Q-GARDEN



一般の造園業者が、化学農薬や  
化学肥料を使って効率的に作業を  
こなすのに対し、Q-GARDEN  
(キューガーデン)(世田谷区深沢、  
小島理恵社長、03・5760・  
6395)では、「お子様やペットが  
いるお宅でも安心して生活できる  
ガーデンづくり」をモットーに、  
オーガニック(有機栽培)で植物を  
育て、お客様の生活や環境に配慮  
したガーデンづくりを提供してい  
る。

「お客様も従業員も安全でな  
ければ意味が無い」という小島社  
長の考えから、設立以来、安全にこ  
だわり続けたことが顧客からの信頼  
につながっている。事実、同社の  
植栽工事は、病害虫駆除  
の際に化学農薬を使用せ  
ず、漢方薬の原料となっ  
ているインドセンダンや  
クララなどをブレンドし  
た天然薬剤や木酢液など  
を使用しているため、マ  
スクをせずに作業ができ



「ガーデンづくりを通じて地域の景観・環境の向上に貢献する」と小島社長

るほどだ。  
同社は個人宅だけでなく、箱  
根仙石原にある「星の王子さま  
ミュージアム」や、東京ミッドタウ  
ンのレストラン「ボタニカ」など  
の施設で、年間管理の仕事も請け  
負っている。「ボタニカ」では庭  
で収穫したミントをデザートに使  
用したり、オリーブを漬けてお客  
様に提供しており、収穫した植物  
を料理に使用している飲食店から  
は、「無農薬なので、お客様に安心  
して提供することができると好  
評を得ている。」  
造園は一般的に「工事が終われ  
ばそれで終わり」と考えられがち  
だが、同社は庭が竣工してから3  
年後・5年後の様子をイメージし  
ながらデザインしている。「植物  
が健康に育つガーデンをつくるこ  
とは、良い自然環境を維持してい  
くことにつながる。ガーデンをつ  
くるといふ仕事を通じて、地域の  
景観や環境の向上に少しでもお役  
に立ちたい」と小島社長は語って  
おり、地域のお客様と一緒にガー  
デンを育てている。  
施工事例など、詳しくはホー  
ムページにて(<http://q-garden.com/>)



# ホテルクラスの安眠をご家庭で 全国規模のベッド売上を誇る 老舗の家具百貨店

亀屋百貨店

亀屋百貨店(大田区西蒲田、杉山洋子社長、03・3731・2228)は、JR・東急蒲田駅西口徒歩2分、蒲田西口サンライズ通り商店街に店を構える昭和2年創業の老舗家具百貨店。地元では豊富な品揃えと親切な接客で知られ、ビルの地下1階から5階まで広いフロア(延べ床面積820坪)に家具、インテリア、雑貨がぎっしり並び、各フロアには専門知識を持つ店員を配置して、そのきめ細やかな接客や相談対応で来店客の評価が非常に高い。

商品の中でも一番人気はベッドだ。売り場にはフランスベッドやシモンズをはじめ一流メーカーの商品を取り扱い、インターネットでベッドの店外催事を告知して集客、多数販売している。「健康ブームで質の高い睡眠を提供することが求められています」。ベッドやマットに力を入れてきた理由をさりげなく語るのは、杉山修一取締役営業部長。この結果、同社はベッドの全国売上で常に上位にランキングされるほどに成長した。中でも、国産メーカー



ベッドの品揃えはどこにも負けない



従業員一同、笑顔で来店をお待ちしている

「イスター」と呼ばれる専門知識を持った有資格者2名を店内に配置している。接客は店内に限らず店外の催事も積極的に手掛ける。また、8年前から亀屋百貨店のホームページを開設し、リステイング広告を家具業界でいち早く導入。杉山修一社長も、「地元密着を心掛け、できるだけお客様の声を聞くようにしている。その上でインターネットによる集客やホームページによる売上増を図ってきた。昔ながらの良いものを継続し、現代的な新しい手法も取り入れていくようにしたい」と語る。ネット時代にも適応した先進的取組みが特長でもあるが、顧客の心をつかりと掴んでいるのは、地元顧客との対話や交流の成せる技だろう。毎年2回、創業祭(6月)と決算月(11月)に全商品割引対象の家具底値市があり、次回は平成25年5月31日(金)から6月2日(日)まで開かれる。詳しくはホームページ亀屋百貨店「検索」まで。

# 健康への気遣いは 上手な木使いから 木にこだわって、木を活かす

由井建設

「家を建てようと思うけど、どこのハウスメーカーに頼めばいいのだろうか? 一生に一度の買い物だから妥協はしたくないし、こんな悩みをお持ちの方に朗報がある。由井建設(杉並区高円寺北、由井菅太郎社長、03・3337・5150)は、昭和34年の創業以来、半世紀に亘り、地元高円寺の顧客を中心に愛されてきた建設会社だ。

「健康への気遣いは上手な木使いから」これは同社の創業当時からの家づくりの理念であり、省エネ・快適はもちろんのこと、健康・安全性にも配慮することを常に心掛けている。木の中でも同社が特にこだわるのが檜(ひのき)の家。檜は材質が緻密で色調が良く、シロアリや木材の腐食菌に対する耐久性にも優れている。また、檜の持つ特有の芳香には気分を和らげる効果もある。もちろん、木の特性である調湿作用と断熱効果も



同社が手掛けた住宅の数々

併せ持つっており、高温多湿な日本の気候風土に適していることから、健康で快適な暮らしの舞台となることは間違いのない。風土に適するからこそ、家も長持ちし、住む人も心地よく過ごせるのである。

フルオーダーによる家づくりをお考えの方にも一人ひとりのライフスタイルに合わせて提案し、お客様が納得いくまで二人三脚で対応していく。伝統の技を知り尽くした同社の木造住宅スペシャリストの手に掛ければ、きっと世界に一つしかない自分だけの快適空間を手に入れられるに違いない。リフォームや耐震診断にも対応しており、住まいに関するあらゆるニーズに対応可能だ。検討の方は是非ご連絡を。詳しくはホームページにて (<http://www.yuikensetsu.co.jp>)

# お客様の満足のために 旬のフルーツを 使った キャラクタケーキのお店

リヴェール・モンターニュ

小さな山小屋風の建物が目印の「リヴェール・モンターニュ」(川崎市宮前区馬絹、山城吉豊代表、044・856・7599)は、東急田園都市線鷺沼駅より東急バス梶ヶ谷駅行に乗り宮前休日診療所前で下車したところにある手作りケーキのお店。いつでも30種類以上のケーキや焼き菓子が店頭並び、店内奥にはゆっくりケーキを味わえるカフェスペースがある。



カフェスペースも落ち着いたオシャレな雰囲気

平成8年の開店以来、季節のフルーツを使ったケーキを提供、シヨークースの中は色とりどりの旬のフルーツと、それらをやさしく包む白い生クリームが鮮やかに輝く。季節限定品を始め、数々のロールケーキも人気商品だ。同店のコンセプトは「お客様の満足のいくサービスを提供し続けること。お客様に笑顔になつていただくこと」。気持ちを込めたサービスの一環として、誕生日や記念日等、その人だけのために世界に一つしかないキャラクタケーキの注文を受けており、パティシエによって一つひとつ丁寧に作られる。カフェスペースは落ち着いた雰囲気、近隣の人たちの憩いの場となつている。昨年のクリスマスにはバイオリンのミニコンサートが催され、素敵な音楽と美味しいケーキを楽しむひと時を提供した。山城代表によると、今後このようなイベントを行っていくとのことだ。同店には幼稚園の帰りの母子、塾帰りの子供たち、我が家へのお土産を買うサラリーマン等々、様々なお客様が来店するが、店内に飾られている子供たちのお礼の手紙や絵はお店の宝物であり、地元にしつかり根を下ろしている証でもある。今日も素敵な笑顔が生まれている同店へいらしてみたいか?



# 「メイドイン品川」ブランド認定 他社には真似のできない 高精度多機能印刷技術

新栄スクリーン



「メイドイン品川」の認定を受けた可変表示器

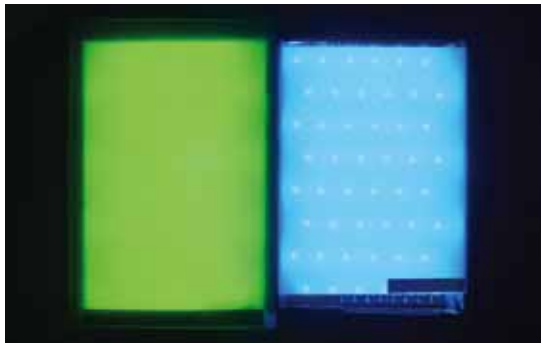
理された印刷物とLED光源との調和を得意としている。

中でも、屋外可変表示器は、企業が開発・実現化した優れた製品・技術を品川区が認定する「メイドイン品川」に認定された傑出した製品。皆さんも普段目にする全国のJRや私鉄の自動改札機の中核部品として採用されている。

新栄スクリーン(品川区大崎、鈴木正宏社長、03・3493・6201)は、39年間培ってきたスクリーン印刷技術にLEDを光源とするモジュールの開発、設計とを組み合わせ、色調、明るさ等、他社には真似できない独自の技術を持ち合わせている。

同社の特長ある部品・技術は、次の3点だ。

- ①LEDバックライト…オリジナルのインキを開発し、導光板のムラを最小にし、輝度を上げることが可能である。
- ②可変表示器(特許取得)…同じ部分に2色のLED光源を設置することで、1枚のシートをかぶせるだけで2種類の表示が可能となり、省スペース、コスト削減に効果的。また、立体加工もできるので、立体表示やプレフォーミングにも使用できる。自動改札機や自動販売機等実際に採用されている。
- ③スーパー拡散シート…オリジナルのインキを開発し、LEDとの距離が10ミリ程度でもムラ、玉見えがなく、明るく均一に光らせることを可能とし、輝度・色度の管



同社の「スーパー拡散シート」(左側)は、従来のもの(右側)と比べてムラ、玉見えがない。

鈴木社長は、「お客様の様々なご要望にお応えするために、他社が真似できなかったり、管理が非常に難しい製品など、積極的にチャレンジし、アイデアの詰まったディスプレイ・表示器の設計開発や、導光板、拡散板、偏光板といった多種多様な多機能印刷について、試作から量産まで精一杯お手伝いします」と語る。  
詳しくはホームページにて  
(<http://www.shineiscreen.com/>)

# 最良の品質とサービスを追求したモノづくり とりあえず日吉に 連絡してみよう!

日吉製作所

日吉製作所 横浜市港北区高田西、松下明義社長、045・591・6101は、昭和32年に設立、金属部品試作・順送金型設計製作・自動精密プレス加工を業としている。同社は、設計から量産・納品まで一貫した体制を確立し、万全の品質管理を敷いている。金属プレス加工は海外生産が多くなっているが、同社では品質・機能にこだわっており、海外製品にはない高性能・高付加価値で勝負している。

現在の主力製品は、オートバイのキーシリンドラー。大手バイクメーカーで採用されており、特にタンブラーの製造においては1/100ミリ単位の正確な特殊加工技術を持ち、大きな強みとなっている。他にも半世紀に及ぶ経験の蓄積を活かして、弱電部品から音響用コネクタ、携帯電話の部品等、幅広い製品を取り扱ってきた。今後は環境・エネルギー分野など時代のニーズに応え、海外では真似できない、技術と品質を付加価値として試作・開発・量産を行っていくとのこと。全般的に専門化が進むモノづくり業界の中で、「日吉さんなら何か応えてくれる」と思っており、とりあえず連絡してみただけだとよく相談を受けるそう。これまで築き上げてきた縦横関係ないモノづくりという強いつながりで結ばれた多数の協力会社とともに、最大限の力、努力する精神で最高の提案をする。

「とりあえず日吉に連絡してみよう!」これがお客様に愛される



同社の工場の様子



同社の製品の数々

同社の原点。松下社長は、「日本の製造業のあり方を見つめ直した時、次世代の『モノづくり大國』日本、Made in Japan.』としてのプライドを改めて認識し、『生み出し、つくり出す製品に対し責任を持つ』という覚悟と、『高付加価値でかつ最良の製品をつくる』という高い志のもと、お客様とともに成長していきたい」と話す。  
(ISO 9001・14001取得済み)  
詳しくはホームページにて  
(<http://www.hiyoshi-mfg.co.jp>)

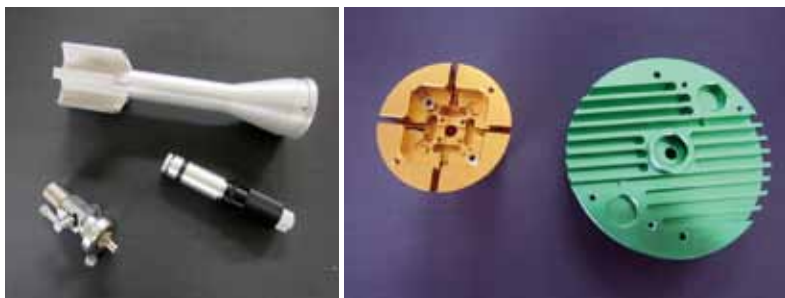
# 独自のネットワークで設計から仕上げまで一括管理 明日をひらく技術に挑む 精密機械加工メーカー

協和精密工業

協和精密工業(町田市常盤町、石川光男社長、042・797・0717)は、48年の業歴を持ち、治具、工具、ゲージの製造、プレス型の製造、各種機械機器及び精密部品の設計・製作を行ういわゆる機械部品の何でも屋である。同社の製品は、業種を問わず各種の製造機械や製造ラインに機械部品として組み込まれている。製品については、お客様の「構想」を短時間で形にする少量・多品種のオーダーメイド製造であり、設計から加工・製造・各種処理・検査・仕上げ納品までを独自のネットワークで一括管理できることを強みとしている。

受注については当月受注の当月納品が当たり前、難削材から樹脂加工、切削加工に研磨加工、精密仕上げまで、図面1枚、個数1個でも受けつける徹底振りである。長年培ってきた経験と、最新の技術を結集させた結果、短納期・少量・多品種生産を可能にし、試作品の製作を受注するほどだ。取引先の大手重工業メーカー、大手自動車メーカー、大手機械メーカーなど多数の大手企業から高い評価を得ているのも頷ける。

同社は、東京都町田市の本社工場に加え、秋田



同社の製品の数々。少量・多品種生産はお手のものだ。

石川社長は、経営において常に「1ランク上の目標」を掲げ、その実現に向けて積極的にチャレンジし続けることをテーマとしている。従業員にも「他人と同じ仕事であれば必要なく機械で十分であり、お客様に満足して買ってもらえる新しいアイデアを持つものづくりをしよう」と日々語りかけている。今後も1ランク上を目指してものづくりに突き進む同社の挑戦は続く。